別紙 － 1

平成２１年　６月２９日
津 軽 ダ ム 工 事 事 務 所

第２回　津軽ダム建設事業マネジメント委員会　審議内容

津軽ダムは、一級河川岩木川の目屋ダム下流側に隣接して建設される多目的ダムであり、岩木川の治水・利水両面の抜本的対策として、目屋ダムの機能を大幅に向上させるために計画され、多種で長期に渡る工程と多額の事業費を必要とする巨大プロジェクトです。

その間に事業進捗や社会情勢の変化により、事業内容の変更及びそれに伴う総事業費の変更が余儀なくされる事例が見受けられる一方、公共事業については、一層のコスト縮減、工期遵守に取り組んでいくことが求められており、このため、津軽ダム建設事業全般における実施状況・進捗状況等について確認を行い、事業費・工程管理の一層の充実を図るために昨年３月２６日（水）に「第１回津軽ダム建設事業マネジメント委員会」を開催し、今回の委員会が第２回目となります。

第２回委員会では下記について審議し、了承されました。

（第２回委員会　審議概要）

平成２０年度は津軽ダム建設事業として、ダム本体建設工事に着手した節目の年で、工事全般をほぼ順調に事業を進捗させた。（参考までに事業進捗率は事業費ベースで３６．２％である）

また、環境面では、当事業にともない猛禽類クマタカへの影響が懸念されることへの方策として取り組まれた補修巣で東北初となる繁殖に成功するなど、環境調査なども計画的に進められている。

今年度は約６，０１０百万円の予算により、昨年から継続してダム本体建設工事を実施しており、ダム本体が上座する箇所等の基礎掘削を４月に着手するなど、ほぼ予定どおり進捗しており、**平成２８年度のダム完成に向けて着実に前進**している。

なお、コスト縮減については、変更された木戸ヶ沢排水トンネルルートが最適であることが確認された。津軽ダム本体建設工事の進捗状況は下表のとおりである。

また、**今後も安全対策に留意し、より一層のコスト縮減と工期遵守に取り組んでいくことを確認**し、第２回マネジメント委員会を終了しました。

津軽ダム本体建設工事の進捗状況

	全体計画	H20 年度末	H21 年度末	H21 年 6 月末	備　考
転流工	1 式	1 式 52 %	1 式 73 %	1 式 52 %	融雪出水による遅れはあるものの今年度で回復予定
基礎掘削	741 千m 3	0 m 3 0 %	450 千m 3 61 %	32 千m 3 4 %	順調
原石採取	611 千m 3	150 千m 3 25 %	205 千 m3 34 %	158 千m 3 26 %	順調
仮設備	1 式	1 式 8 %	1 式 85 %	1 式 24 %	順調